



三陸ミステリー 被害者と同姓

「彼女は私の身

小原容疑者と佐藤梢さんの足取り(岩手県警や関係者などによる/08年)

日時	場所	動き
① 6月28日 午後10時半ごろ	コンビニ (宮城県登米市)	佐藤さんが小原容疑者から「恋の悩みについて相談したい」と呼び出され、自宅近くのコンビニで待ち合わせた
② 6月29日 午前9時ごろ	小原容疑者の弟宅 (岩手県田野畑村)	小原容疑者が一人で弟の家を訪れる。右手を負傷しており、傷の手当てをする
③ 6月29日 午後7時20分ごろ	済生会岩泉病院 (同岩泉町)	小原容疑者が弟夫婦とケガの治療を訪れる。医師には「酔っ払って壁とケンカした」と話す
④ 7月1日 午後4時半ごろ	松草沢 (同川井村田代)	沢の中で佐藤さんが亡くなっているのが見つかる
⑤ 7月1日 午後9時ごろ	事故現場の県道 (同田野畑村北山)	地元の男性が、小原容疑者が物損事故を起こした現場を通りかかり、自宅まで送った。右手から血を流しており、「女とケンカして殴った」と話した
⑥ 7月2日 午前8時すぎ	小原容疑者の実家 (同田野畑村羅賀)	小原容疑者の実家近くに住む親類の男性が、小原容疑者に頼まれて鶴ノ巣断崖の手前3キロの地点まで送る
⑦ 7月3日 午後3時半ごろ	鶴ノ巣断崖 (同田野畑村真木沢)	小原容疑者の免許証や財布、靴などが見つかる。ここで自殺を装い逃亡した、と県警は見ている



て逃げたとみて、事件発覚から28日後の7月29日、殺人容疑で全国に指名手配された。

しかし、本誌08年11月14日号と同21日号で報じたとおり、小原容疑者を犯人とするにはあまりにも疑問が

多すぎるのだ。

疑問その1(死亡推定時刻)

佐藤さんの死亡推定時刻について、県警は、「6月28日深夜から7月1日午後4時半ごろまで」としている。

ケガした右手で絞殺できるか

佐藤さんは6月28日午後11時ごろ、宮城県内のコンビニでひとり立ち読みする姿が防犯カメラに映っており、遺体が見つかったのは7月1日午後4時半ごろ。つまり、県警は、最後に確認されてから遺体が発見されるまでを「死亡推定時刻」としているにすぎない。それどころか、岩手医科大学が死体検案書で、

(6月30日から7月1日)としていたにもかかわらず、死後硬直や胃の内容物などから導き出された法医学の結論を退けたのはなぜか。疑問その2(右手のけが)

前述したように、小原容疑者は右手の甲に深い傷を負っていた。佐藤さんと呼ばれた翌日の6月29日午前2時すぎ、盛岡市内と見られるガソリンスタンドの防犯カメラに、右手に白い布を巻いた小原容疑者の姿が映っている。この日の夜、小原容疑者を治療した病院の医師は言う。

「(小原容疑者は)『壁とけんかした』と言っていたが、壁を殴ってできるような傷ではありませんでした。いずれにせよ、あれでは人の首を絞めて殺すことはできないでしょう」

さらに、遺棄現場に足を運ぶと、疑問は膨らむ。川床から高さ約3メートルに架かる橋から、遺体がうつぶせに横たわっていたとされる地点までの距離が約5メートル。身長170センチで痩せ形の小原容疑者がひとりでそこまで女性を投げ捨てられるとは思えない。まして、病院に付き添った小原容疑者の弟が「右手では箸ももてなかつた」と証言するほどの状